

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 12月 22日

公表: 令和6年3月6日

事業所名 ポカラポットふじしま

		チェック項目	はい (%)	いいえ (%)	どちらともいえない (%)	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	75		25	活動内容で空間を分けるようにしている	
	2	職員の配置数は適切である	66.7		33.3	活動時のスタッフ配置をチームで検討して決定している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	66.7	25	8.3		雨漏りがあったが改修工事を行い改善した
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	66.7	16.7	16.7		明確な目標設定を行い実行、検証していく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	91.7		8.3	毎年アンケートを実施、HPIにて公表している 結果に対して検討会(分析・対策)を行っている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83.3	8.3	8.3	評価表をHPIにて公表していることを伝えている	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	25	58.3	16.7		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83.3		16.7	年間計画に組み込み定期的に開催、参加の機会を設けている	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	91.7		8.3		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50		50	保護者さんのご希望に応じてS-M社会生活能力検査を実施している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100			利用者さんの個々の目標を、いかに楽しい活動を通して達成していくか、この部分を重要視し、定期的に会議を行っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	91.7	8.3		利用者さんの目標によってはあえてプログラムを固定することもありますが、外出も含めて固定化しないように、打ち合わせでその日に利用する子どもの特性を考慮しながら、チームで検討し決定している	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	75		25		

適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100				利用者さんの年代に応じて適切な活動プログラムが提供できるようチームで会議を重ねている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100				支援の漏れがないよう、サービス開始前にスタッフ会議で、個々の個別支援計画を確認している。支援内容に限らず、関係性を踏まえたチーム分けや車両の乗車配置など、慎重に環境設定の準備をしている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	91.7	8.3				
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	91.7		8.3		個々の個別支援計画の目標を確認しながら、行われた支援の記録を行っている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	91.7		8.3			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100				ガイドラインを踏まえて、個別支援計画の作成や活動計画の立案を行っている	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	91.7		8.3			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	81.8		18.2			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	18.2	45.5	36.4			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	36.4	45.5	18.2			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	27.3	27.3	45.5			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	63.6	9.1	27.3			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	36.4	36.4	27.3			
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	18.2	45.5	36.4			

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	90.9		9.1		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9.1	18.2	72.7		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100				
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	54.5	45.5			保護者の方同士で話し合える機会を来年度に実施する
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	63.6	27.3	9.1	支援管理システム(HUG)を利用して毎日の活動を確認してもらえる	
	35	個人情報に十分注意している	90.9		9.1		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	45.5	36.4	18.2		
	非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	90.9		9.1	HPIに掲載している
39		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	90.9		9.1	各曜日をローテーションしながら毎月必ず訓練を行っている	
40		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100			研修機会を設け、全スタッフに年4回の虐待防止セルフチェックも行っている	
41		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100				
42		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	66.7		33.3		
43		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100				